



神々の角笛 *The Roaring Trumpet* (1940)
デイ・キャンプ&プラット (関口幸男訳)
早川書房 (文庫) (7/31刊・¥280)

名のみ高かったハロルド・シェイムシリ
ーズの一作目が本書。待望の翻訳である。日
本で簡単な内容紹介のされたのが六五年だか
ら、ずいぶん時間がかかってしまったものだ。
風采の上がらぬ精神病医のハロルド・シェ
イが、『三段論法転送』で到着した世界は、
北欧神話の世界。折しも、神々と巨人族との
戦いが始まろうとしている。しかし、シェイ
の持ち込んだ現代の道具は、一つも役立たな
い……。

——ユーモア・ファンタジイである。表紙
の絵は、少し誤解を与える。ドタバタではな
いが、当り前のヒロイック・ファンタジイで
もないからだ。ダメな主人公が、神話世界で
繰り広げる珍妙な冒険譚——先月取り上げら
れた『カメレオンの呪文』などは、本書の延
長線上にある。いわば、草分け的存在ともい
えるだろう。しかし、原点であるが故に、今
一つ薄味であることは否めない。北欧神話を
舞台にしたファンタジイは、この後、アンダ
ースンらが好んで取り上げており、既に翻訳
されているから、よけいにそう感じるのかも
知れない。ただ、本書のシンプルさの持つ軽
快な味は、なかなか心地よいものだ。(俊)